

## D-1 成果と課題

本研究のテーマを掲げ、取り組みを深めながら、授業のあり方をより厳しくみつめ直し、これまで以上の改善と積極的な実践により、次のように生徒の学習に対する大きな変容が見られた。

- ・男女共習やグループ活動においては、生徒間の中に互いのつながりを大切にする心が培われ、仲間を尊重する姿勢、協力、公正な態度が育まれてきた。
- ・学習ノートの内容の改善は、つまずきを解決するヒントを与えるなど直接的な効果があったばかりでなく、生徒とのコミュニケーションを図り、信頼関係を深める役割も担った。

今日中学生は複雑な人間関係の中にあり、共に学習を進める上でつまずきもみられたが、生涯学習を意識した取り組みの中で、「誰とでも運動できる」「誰とでも運動を楽しめる」ということこそが大切だと気づきだした。自己の課題の解決に向けて、共に考えたり、工夫したりする活動が多く見られるようになった。

課題については、4つの観点に分けてまとめた。

### 【関心・意欲・態度】

授業開始前より、仲間とともに進んで準備運動に取り組んだり、用具や器具等の準備をする生徒が増えた。また、ペア学習、グループ学習や男女共習学習等の授業形態から、互いに尊重し合うことや協力し合うことなどの態度の高揚にもつながってきている。課題としては、運動の特性を深めていく過程から得られるよりいっそうの興味・関心・意欲づけへとつなげられるよう支援が必要である。

### 【思考力・判断力】

生徒は、自己の課題をもちながら学習できるようになってきている。しかし、活動の仕方を自ら考え、工夫しようとする力は、まだ十分とはいえず、今後の重点課題である。教師側の支援のひとつとしては、生徒が学習の中で使う学習資料や学習ノート等は、生徒の自主的・自発的な学習を円滑に進める上で、絶えず工夫・改善を図っていかなければならない。

### 【技 能】

技能は、意欲的な取り組みと仲間の励まし、アドバイス等により向上へとつながった。課題としては、次なる技能目標へと進展できる意識の高揚とともに、体力の向上を図るための運動の行い方をこれまで以上に身につけさせる努力をしていかなければならない。

### 【知識・理解】

生徒に、単に体育理論や技能構造、ルール等の知識を習得させるのではなく、運動を自己の生活の中に活用していける知識として獲得させていかなければならない。この点から生徒の現状をみると、学級や学年、学校等の行事、部活動等の中に成果が現れてきている。例えば、生徒自らが企画・運営をする際、安全性に心を配ったり、体力の向上を意図して種目を選定するなどの様子がみられる。体育授業で学んだ知識が学校生活の場面の中に生かされてきている。今後は、その身に付けてきた知識の定着を図っていききたい。

以上、4つの観点から今後の課題（成果も含む）について具体的に述べてきたが、特に「思考・判断」の面に課題が残る。なかでも、自己の課題を具体的に設定し、その課題を主体的に解決していく能力を身につけさせていかなければならない。このことは、研究主題にも掲げる「学ぶ力・考える力」の育成に直接に結びついていくことから、今後も焦点をあてて取り組んでいきたい。